



待機児童への対策は

問 兄弟姉妹が同じ施設へ入所できない待機児童数は、単なる国の統計数値ではなく保護者にとつて切実な問題と思われる。別々の保育所に通うとなると送迎や行事への参加など家庭の負担も倍増することになるが、2023年度に向けての改善策は。

答 待機児童ゼロに向けた改善策として保育士確保に努める中で

敬老行事の在り方は

問 ①このたび、今後の敬老行事の在り方について見直し案が示された。敬老会は、主に小学校区ごとに組織される自治会を中心とした実行委員会が主体となり実施されている。これまでに地域の高齢者と住民をつなぐ大切な役割を担ってきた一方で開催に係る地域の負担の軽減も必要と考へる。見直し案の作成は、広く市民の意見を聞く中で検討されたらと伺っているが、出された意見や要望は。
②敬老意識醸成への取り組みは。

公立施設の保育士配置の最適化などを行ってきた。この結果、現時点までの入所審査においては、入所決定率が昨年度に比べて上昇するなど、待機児童数の改善が見込まれる。また、兄弟姉妹の同一施設入所の推進に向けては、個別に特別相談を実施し、利用可能な施設の案内を行うなどきめ細やかな対応に努めている。

今後も、待機児童ゼロと兄弟姉妹同一施設入所のさらなる推進に全力で取り組む。

答 ①見直しの主な内容は、対象年齢の75歳以上から80歳以上への引き上げ、一般記念品に替えて市からお祝いのメッセージカードの送付などである。なお、対象年齢は、段階的な引き上げも検討したいと考へている。アンケート調査等では、これまでのやり方では地域の負担が重く実施が困難、地域の実情に応じた行事への見直しが必要などの意見をいただいた。
②長年にわたり社会に貢献された高齢者を市民が敬愛し、長寿を祝うことはとても大切なことと考へる。地域のボランティア等で活躍する高齢者の姿等を広く発信するなど、敬老意識の向上に努める。

抜本的な浸水対策は

問 ①手城川流域では、蔵王雨水幹線・ポンプ場の工事が本格化している。たびたび浸水被害に見舞われ、流域内の方々は完成を心待ちにしていると聞かれます。進捗状況と今後の予定は。
②令和3年7月、集中豪雨により木之庄地域で床下浸水被害が発生したが、対策の検討状況は。

答 ①雨水幹線は管径1200から3000ミリメートル、延長約3・2キロメートルの管渠を地

下に築造する工事を進め、令和5年度末の完成に向け計画通り進捗している。ポンプ場は現在基礎部の地盤改良工事などを実施しており、令和7年度の完成に向け、掘削工事などに続き躯体工事に着手する。ポンプ場完成までの暫定措置として令和6年の出水期から、先行して完成する雨水幹線を雨水貯留施設として活用する。
②蓮池川への排水能力向上策などは詳細な対策効果の検証を行い、その結果を踏まえて最も有効な対策を選択し、取り組みを進める。

公明党



いくた まさよ
生田 政代



地方創生臨時交付金は

問 新型コロナウイルスの感染拡大の防止と、その影響で苦しむ住民の暮らしや地域経済の支援のため、各自治体の実情に応じた活用できる自由度の高い交付金として創設された。本市

独自の応援金等の支給の具体は。

答 これまで、国の臨時交付金や本市の財政調整基金を活用し、スピード感を持って生活者や事業者への独自の応援金などを支給してきた。生活者への支援として、子育て世帯には出生児特別定額給付金や出産育児特別応援金を、ひとり親家庭や障がい者などには緊急応援金を支給してきた。また、事業者に対しては、介護サービス事業所や保育施設などのほか、売り上げが大きく減少した中小事業者などへ応援金を支給している。

※50戸連たん制度(P4)：市街化区域に隣接または近接する市街化調整区域内において、50戸以上の建築物が連たんして市街化区域と一体的な日常生活圏を構成している場合に、住宅の建築や宅地開発を認めるもの。本市では、コンパクトなまちづくりをめざす方針から令和4年3月末で廃止した。